

心に残る文化財子供塾 松江市立宍道小学校6年生

1. 活動の概要

7月11日(金)、松江市立宍道小学校6学年で『心に残る文化財子供塾』を開催しました。多目的室を使用して小学校周辺の遺跡の講義や、センターから持ってきた遺跡出土土器や勾玉の展示見学を行いました。また、体験活動に「勾玉作り」を希望されていたので、体育館と校舎の渡り廊下のアーケード部分を使用して活動を行いました。

はじめに、宍道町に原始古代のいろいろな遺跡があることを紹介する中で、生産遺跡という区があることを紹介し、来待石切場や須恵器を生産した窯跡があることを紹介しました。つぎに、松江市内の広い範囲に目を向けるとして、児童の皆さんが最近、風土記の丘展示学習館と山代二子塚現地を訪れて見学学習したと聞き、宍道小学校に保管展示してある考古遺物のうち古墳時代の遺物について改めて見学して併せて古墳時代の学習としました。さらに県内のほかの地域にも目を向けてもらおうと、益田市のスクモ塚古墳(前方後円墳)など県内でも有数の大きな古墳があることを紹介しました。

参考として持参した当センター収蔵品の縄文土器(飯南町出土)や弥生土器(松江市内出土)、須恵器(松江市内出土)も展示して、これらの土器にふれたり、観察したりして、職員が土器について説明したり、先生や児童の皆さんの疑問質問に答えたりしました。

勾玉づくりの事前学習として

- ・勾玉の歴史、作られた時代(縄文時代～古墳時代)
- ・用途(首飾りなど服飾品として)について
- ・独特の曲がった「C」字形状について(牙、胎児など諸説あり)
- ・使用された石材(瑪瑙、碧玉、水晶、滑石など)
- ・勾玉以外の玉製品(管玉、切子玉、三輪玉、平玉など)
- ・出雲地方が勾玉の全国有数の一大産地であること(花仙山の存在)
- ・出雲で作られた勾玉が日本全国に分布していること

などを説明し、最後にほんとの勾玉の製作過程(採掘→割る→磨く(成形)→穴をあける→磨く(仕上げ))を紹介しました。

アーケードに移動して、グループ分け、製作キットを配布した後、あらかじめ「C」型に成形した蠟石を3種類の紙やすりで順次仕上げていくやり方を説明しました。粗い目の紙やすりで丸みを出す成形→細かい目の紙やすりでさらに形を整えて滑らかに仕上げる→耐水性の紙やすりで磨いて艶出しです。

そして、いよいよ、児童の皆さんは体験学習の勾玉作りを始めました。全体の作業の傾向としては、初期の段階では均等に角を丸めることに苦労しているようでした。湾曲の内側の成型に苦労する児童が多かったようです。皆さん非常に熱心に取り組んで楽しく作業できたように思います。時間内に余裕をもって仕上げまで工程を進められた児童は、細部の成形の出来栄も良く、光沢仕上げまでやり切った児童もいるようでした。

最後に希望者を募って自作の勾玉をペンダントにして装着し、古代衣装(縄文風貫頭衣、弥生風衣装とみずらなど)を試着しました。

2. 活動の様子

1) 原始・古代の鏡の歴史、益田市の歴史や古墳について解説を聞く



センター職員による遺跡や勾玉の話



小学校内の遺物展示見学



島根県埋蔵文化財調査センター所蔵の土器を観察する

2)古代体験活動～勾玉作り～



勾玉製作 蠟石を研磨して成形



成形した蠟石をさらに研磨して仕上げへ

3. 子ども塾を終えて

1)生徒の皆さんから…

一番“心に残った”こと

- ・勾玉作り。
難しかったけど完成するのを楽しみにしていたし、実際に作ることができてよかったです。
めったにできない経験ができた。
- やすりで削るところ
勾玉を作るのが難しくて縄文の人はすごいと思った。
勾玉作りが楽しかった。
勾玉を上手に作ることができた。きれいな形ができてよかった。
3番目のやすり(耐水性の紙やすり)でこすったらめっちゃつるつるになった。
- 勾玉を丸くするところ
最初の磨くところ
削るのが楽しかった。
- ・本物の勾玉を見たこと
- ・縄文土器を見ることができた。

もっと知りたいことやほかに体験してみたいこと

- ・勾玉以外の玉を作ってみたい。
- ・勾玉を作るための原石をどうやって探していたか知りたい。
- ・勾玉になんであんないろいろな石を使うのか？
- ・本物の勾玉(硬いやつ)を作ってみたいです。
- ・他のアクセサリー？作りをしてみたい。
- ・縄文土器のことをもっと知りたい。
- ・縄文時代～古墳時代の文化がもっと知りたい。
- ・土器をどう使うか知りたい。

- ・もっと歴史の物を実際に見てみたいと思った。
- ・他の歴史や文化財を実際に作ってみたいです。(理由は、今日、やってみて、楽しかったからです)
- ・埴輪とか作ってみたい。
- ・昔の生活体験をしてみたい。
- ・縄文時代、弥生時代、古墳時代の武器(について知りたい)
- ・縄文時代のことなどをもっと知りたくなった。
- ・いろんな文化財などをみてみたい。
- ・昔の時代を知りたい。
- ・縄文人や弥生人がどんなふうに暮らしていたか(知りたい)

2)担当の先生方から…

- ・本物に触れることができた点(土器)がよかった。
- ・勾玉作り(体験活動)を通して(児童たちの)歴史学習への意欲が高まった。

3)埋文センターから

宍道小学校の校内に展示してある古墳時代の須恵器を、古墳時代の説明をしながら改めて見ていただく機会持つことができ、身近に感じてもらえたのではないかと思います。生産遺跡の説明をして玉作や窯業や石切り場など具体的な遺跡が紹介できたこともよかったと思います。

松江市の風土記の丘展示学習館や山代二子塚で現地見学をされた後とのことで、松江あるいは出雲地域だけでなく、島根県全体への興味を持ってもらおうと石見地域の益田市のスクモ塚古墳や隠岐の古墳なども紹介しましたが、詰め込みすぎだったかもしれません。

島根県埋蔵文化財調査センターから、縄文土器、弥生土器、須恵器の手に触れてみることでできる遺跡出土資料を学校まで持参して実際に触れてもらいました。児童の皆さんには見聞きしたことに加えてより実感を持っていただけたかと思います。

体験活動の時間に余裕のないことが懸念されましたが、皆さんの頑張りによって各自それぞれの勾玉が完成できてとてもよかったと思います。もう少しクイズ形式で何かやってみるとか、座学の場面でもう工夫するべきだったと反省しています。